

田中一村 常設展

TANAKA ISSON Permanent Exhibit

奄美で日本画の新境地を拓いた田中一村の画業を、東京、千葉、奄美時代の作品群（約80点）を辿りながら「堪能ください。」



不喰芋と蘇鐵 個人蔵 田中一村記念美術館寄託 ©2019Hiroshi Niiyama ※展示内容によってはご覧いただけない期間があります。

【観覧料】 大人 520 (410) 円 / 高大生 370 (290) 円 / 小中学生 260 (200) 円 ※ () 内は団体 (20 名様以上) の料金



田中一村記念美術館について

田中一村記念美術館は、2001年9月、鹿児島県奄美パーク内に日本画家田中一村のコレクションを常設展示する美術館として開館しました。奄美の海をイメージして作られた池の上に、高倉を模した展示室が建ち並ぶ特徴的な建築となっています。地元の素材をふんだんに使った館内には、常設展示室（第1～3展示室、特別展示室）の他に、田中一村について映像で学べるガイダンス室やライブラリーなどの無料エリア、奄美にちなんだ催しが開催される企画展示室、カフェやミュージアムショップがあります。



美術館入口



第1展示室（東京時代）



第2展示室（千葉時代）



第3展示室（千葉時代）



特別展示室（千葉・奄美時代）

田中一村について

田中一村は、彫刻師の父の指導のもと、幼少より画才を発揮し、十代から南画家として活躍しました。17歳で東京美術学校（現在の東京藝術大学）日本画科に入学しますが、わずか2か月で退学します。大学を退学した一村は、先達に学び、独学で制作を続け、南画から花鳥画や風景画を写實的に描く作風へと変わっていきます。昭和13（1938）年からは千葉市千葉寺に暮らし、農業と画業に励み、昭和22（1947）年には青龍社展に「白い花」が初入選します。しかし、その後は、なかなか中央画壇に認められることはなく、昭和33（1958）年12月、



50歳の一村は、新たな自分の表現を追い求め、単身、奄美大島へ渡りました。奄美での一村は、絵を描くために紬工場で染色工として働き、孤独と切り詰めた生活の中でも、画家としての信念を貫き、亜熱帯の動植物をモチーフに新たな日本画の世界を創造しました。一村は、奄美で描いた作品を発表するという思いは叶わず、昭和52（1977）年9月11日、69歳でその生涯を閉じました。昭和54（1979）年、有志によって一村の遺作展が開催されました。

田中一村常設展について

田中一村記念美術館では、所蔵作品の中から、田中一村の東京、千葉、奄美時代の作品を、いつでも約80点（年4回展示替え）お楽しみいただけます。

幼少期から青年期にかけて呉昌碩など中国の文人画家や南画家の影響を受けた東京時代。農業や手仕事をしながら多彩な筆法を取り込んで新しい日本画の表現を模索した千葉時代。亜熱帯の豊かな自然をモチーフに、斬新な構図や色彩で新たな日本画を生み出した奄美時代。各時代の代表作を含む作品群を巡りながら、田中一村の創作の軌跡と一村芸術の真髄をご堪能いただけます。

奄美／田中一村記念美術館へのアクセス方法



船舶利用

鹿児島、沖縄より定期便



航空機利用

東京（羽田・成田）、大阪（伊丹・関空）、福岡
鹿児島、喜界島、徳之島、与論、沖縄より定期便

島内交通



名瀬港から奄美パーク・田中一村記念美術館

車（レンタカー）約40分

奄美空港から奄美パーク・田中一村記念美術館

車（レンタカー）約5分



名瀬港から奄美パーク・田中一村記念美術館

路線バスご利用の場合 約55分

※名瀬乗車（奄美空港・赤木名外金久行き）→奄美パーク下車

奄美空港から奄美パーク・田中一村記念美術館

路線バスご利用の場合 約5分

※奄美空港乗車（せとうち海の駅・こしゅく第1公園行き）→奄美パーク下車